

【成果指標の設定】

成果指標設定年度

24

年度

市町村名	蕨市			
提案事業名	にぎわいと活力あるわらび創出事業			
事業期間	平成24年4月～平成25年3月			
事業の必要性、目的	<p>本市では、中心市街地の活性化など、まちのにぎわいを創出する「キラリWARABIプログラム」を市の重点施策として位置付けており、市長マニフェストにおいても、「にぎわいと活力あるまちづくり」をビジョンとして掲げている。</p> <p>しかし、直近5年間の市民意識調査において、商店街に週1回以上買い物に行く人の割合は35%前後で伸び悩んでいる。また、同様に、クリーンわらび市民運動の参加者数や市の代表的なまつりの来客数も、近年は横ばいで推移している。</p> <p>こうした現状のなか、まちのにぎわいの創出のための事業を総合的に展開することにより、にぎわいと活力あるわらびを創出することを目的として、本事業を実施するものである。</p>			
成果指標	<p>(成果を検証する指標)</p> <p>①商店街に週1回以上買い物に行く人の割合 ②クリーンわらび市民運動参加者数 ③代表的な祭りの来客数 ④歴史民俗資料館の入館者数</p>			
	<p>(成果検証の具体的な方法)</p> <p>①過去5ヶ年平均(平成19年度～23年度)と25年度の市民意識調査結果を比較する。 ②平成23年度と24年度の「さわやか環境の日クリーンわらび市民運動」年間参加者数を比較する。 ③平成22年度と24年度における市の代表的な祭り(苗木市・機まつり・宿場まつり)の合計来客数を比較する。 ④平成23年度と24年度における年間の歴史民俗資料館入館者数を比較する。</p>			
	<p>(上記の指標を設定した理由)</p> <p>①中心市街地の活性化に係る指標を比較することで、構成事業が創出したまちのにぎわいと活力の成果を確認するため。 ②安全安心きれいなまちづくりポイントの付与事業となっているクリーンわらび市民運動の参加者数を比較することで、構成事業が創出したまちのにぎわいと活力の成果を確認するため。 ③観光・イベントの活性化に係る指標を比較することで、構成事業が創出したまちのにぎわいと活力の成果を確認するため。 ④歴史民俗資料館の入館者数を比較することで、構成事業が創出した町の歴史・文化への市民の関心向上に伴うまちのにぎわいと活力の成果を確認するため。</p>			
	<p>(成果の目標値)</p>			
	現状値 (過去5ヶ年平均: 19年～23年)	①36.4%	目標値 (25年8月時点)	①38.4%
	現状値 (23年度)	②8,193人 ④32,698人	目標値 (24年度)	②8,500人 ④33,000人
現状値 (22年度)	③490,000人	目標値 (24年度)	③495,000人	
住民への公表方法及び特記事項		ホームページ		

【成果指標と構成事業の関連性】

平成24年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① わらびりんご 特産品開発事業	市内農業者で構成する「蕨市園芸緑化研究会」に対して、蕨発祥で日本一早く実をつける「わらびりんご」を利用した地域特産品(ドレッシング、ジュースなど)の開発補助を行う。市内商店街における特産品の販売・流通を目指し、まちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標①と関連	100 (100)
② コミュニティビ ジネス起業支 援事業	実際に起業を行おうとする受講者を対象に実践的支援を行う。内容は、専門コンサルタントによる、雇用保険制度や融資制度の解説、融資・出資が得られる実践的な事業計画書の作成など、実際の起業に即したより実地的な支援を考えている。支援を受けた人が実際に商店街での起業に至る事例を作ることで、まちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標①と関連	490
③ 安全安心きれ いなまちづくり ポイント事業	にぎわいまちづくり連合会が実施している地域助け合い事業のポイント100万円分を、各町会に対して付与する。ポイントは、クリーンわらび運動、公園の美化・清掃活動等の参加者に対して町会から与えられ、別途付与するポイントカードに貼ることで、商店街などの買い物で利用できる。町会事業参加を促進するとともに、ポイントの商店街での幅広い流通に寄与することで、まちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標①、②と関連	1,000

④ 観光マップ作成事業	ソフト	まちの歴史やイベント、文化財などの蕨のみどころが掲載された観光マップを作成する。具体的には、ぐるっと埼玉サイクルネットワークなどの新たな掲載項目を検討するとともに掲載項目の厳選を行う。また、視覚障害者も容易に認識可能な色づかいを工夫する。さらに、蕨駅改札口に配置することで、より多くの人に蕨の観光拠点を知ってもらい素地を整え、まちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標①、③、④と関連	483
⑤ 中仙道蕨宿開設400周年特別展	ソフト	中仙道蕨宿開設400周年特別展を10月から12月の2ヶ月程度開催する。内容は、蕨本陣家に現存している江戸時代の資料や、歴史民俗資料館が収集している中仙道宿場町の浮世絵の展示を想定している。これらの貴重な資料はこれまでほとんど展示が行われておらず、両者の展示を同時に行うのは開館以来初の試みとなる。また、近年新たに発掘・収集され、初めて披露される展示品も数多く存在するため、特別展の歴史的価値は高いといえる。特別展に伴う来館者の増加により、まちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標③、④と関連	327
⑥ 中仙道蕨宿開設400周年記念事業委託	ソフト	中仙道蕨宿開設400周年を記念して、中仙道昔話講演会、69宿場ポスター展示、400に絡めたイベント、記念品作成、PR促進（チラシ、のぼり作成等）を、年間を通して実施する。各種記念事業の実施により観光客を呼び込むとともに、次世代への糧をテーマに、今後継続するまちのにぎわいと活力を創出する。 ・成果指標③、④と関連	1,000
合計			3,400 (100)

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	<p>指標①については、市民意識調査結果を成果指標としているため、ホームページ、広報紙、町会回覧等で事業を積極的に周知するとともに、事業の成果を市民の目に見える形で示すことが重要になる。</p> <p>指標②については、全町会でポイントを付与するポイント事業の主要事業であるため、各町会において参加を奨励することはもとより、市としても積極的な参加を呼び掛けることが、参加者数の増加のためには重要となる。</p> <p>指標③については、平成24年度から機まつりの日数が従来の4日から1日短縮され、3日となるが、まつりの内容の密度を一層高めることが、来客数の増加のためには必要となる。</p> <p>指標④については、年間入館者数を成果指標としているため、中仙道蕨宿開設400周年関連事業による、一過性ではない入館者数の継続的な底上げを図る必要がある。</p>
成果指標の達成見込み	上記の方策を着実に実行すれば、成果指標を達成することは十分可能と考える。